

大豆早生品種「オオツル」の推奨品種採用							
<p>【要約】加工用として、また煮豆用として用途が見込まれる早生・大粒白目大豆「オオツル」を推奨品種に採用し地域特産化を図るとともに、大豆-麦体系による耕地利用の高度化を推進する。</p>							
三重県農業技術センター・資源開発部、伊賀センター					連絡先	05984-2-6363	
部会名	水田・畑作物	専門	育種	対象	豆類	分類	普及

【背景・ねらい】

大豆は転換畑作の主要作物として位置づけられているが、栽培面積は漸減の一途をたどっている。しかし、消費者および実需者からは、国産大豆に対する生産要望は根強いものがある。そこで、加工用として、また煮豆用として用途が見込まれ、付加価値が高いと考えられる早生・大粒白目大豆「オオツル」を推奨品種に採用し、地域特産化を図るとともに、大豆-麦体系による耕地利用の高度化を推進する。

【成果の内容・特徴】

「タマホマレ」に比較して下記のような特性を有する。

- ① 開花期は1~2日、成熟期は7~10日早い早生品種である(表1)。
- ② 第一次分枝数、主茎節数は同程度であるが、主茎長はやや長く蔓化し、倒伏し易い(表1)。
- ③ 稈実莢数は少ないが、百粒重はかなり大きく、子実収量は同程度の大粒白目大豆である(表1)。
- ④ 腐敗粒が発生し易く、外観品質はやや劣る(表1)。
- ⑤ 子実の蛋白含量が高く、豆腐の加工適性に優れ、煮豆用大豆としても評価が高い(表3)。
- ⑥ 播種期幅が広く、7月初旬播きでも10月中に機械収穫が可能であり、大豆-麦体系が円滑に進められる(表2, 図1)。

【成果の活用面・留意点】

- ① 普及地域は、北勢および伊賀の中山間地域。普及予定面積 300 ha。
- ② 大粒で煮豆等の適性も高いので、集団化し地域特産化を推進する。
- ③ 中生「タマホマレ」、晩生「フクユタカ」と組み合わせることにより、大規模・組織的栽培ならびに大豆-麦体系による耕地利用の高度化を推進する。
- ④ 蔓化・倒伏し易いため、過度の早播きおよび密播を避け培土を的確に行う。
- ⑤ 後期凋落により、小粒や偏平粒になりやすいので地下水水位が低く、排水良好な圃場を選定する。
- ⑥ 大粒大豆の特性を活かすため、過度の遅播を避ける。

【具体的データ】

表1. 「オオツル」の特性 (1987~1994年の平均)

	本場			伊賀		
	タマホマレ	オオツル	エンレイ	タマホマレ	オオツル	エンレイ
播種期(月・日)	6.15	6.15	6.15	6.23	6.23	6.23
開花期(月・日)	7.29	7.31	7.26	8.4	8.5	8.3
成熟期(月・日)	10.16	10.26	10.12	10.20	10.27	10.18
主茎長(cm)	61.1	57.1	48.5	52.2	52.2	49.2
第1次分枝数(本)	5.1	5.6	4.6	3.4	3.6	3.4
主茎節数(節)	12.1	12.7	10.4	12.1	13.1	11.5
稈実莢数(個/㎡)	706	915	673	571	826	621
子実重(kg/a)	28.0	27.5	24.3	27.6	30.6	25.5
百粒重(g)	35.6	26.1	31.6	35.0	26.7	30.6
倒伏	1.8	1.1	0.8	0.8	0.4	0.4
蔓化	0.7	0	0	0.1	0	0
立枯病	0.8	0.3	0.9	0	0	0
品質	4.5	3.7	5.8	3.1	3.1	4.6
(腐敗粒)	(4.0)	(1.5)	(3.3)	(-)	(-)	(-)

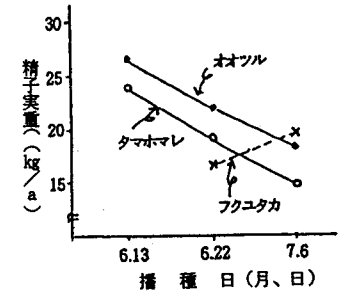


図1 播種期と種子実収量 (1990)

- (注1) 倒伏、蔓化、立枯病、腐敗粒は、無:0、微:1、少:2、中:3、多:4、甚:5の6段階評価で示した。
(注2) 品質は、1(上の上)~9(下の下)の9段階評価で示した。
(注3) 比較品種にタマホマレ、参考品種はエンレイとした。

表2. 晩播オオツルの栽植密度と生育・収量 (播種 1990.7.6)

栽植密度(本/㎡)	成熟期(月・日)	主茎長(cm)	倒伏	蔓化	稈実莢数(個/㎡)	百粒重(g)	種子実重(kg/a)
15.9 (70×18cm)	10.22	49	1.0	0.0	612	30.4	18.0
19.0 (70×15cm)	10.22	52	2.0	1.0	704	30.1	20.2
28.6 (70×10cm)	10.20	61	3.0	1.5	752	28.1	17.9

(注1) 倒伏、蔓化の数字は表1に準ずる。

表3. 子実成分および煮豆特性

	各成分含有率(%)			官能試験				
	粗蛋白含有率	粗脂肪含有率	全糖含有率	見ばえ	硬さ	香り	味	総合
オオツル	43.9	19.9	19.7	2.7	3.3	3.0	3.3	3.1
タマホマレ(比)	37.8	22.0	21.6	3.0	2.5	3.0	2.6	2.6
エンレイ(参)	45.1	18.4	20.5	2.3	2.9	3.0	2.7	2.4

(注1) 官能試験のデータは香西由紀夫他:煮豆用原料大豆の評価(日本食品工業学会誌 1989 No. 36-2)より抜粋。

(注2) 官能試験の数値は5段階評価法で、数字の小さい方が劣る。

(注3) 総合の項目において1%水準でオオツルとエンレイ・タマホマレに有意差あり。

【その他】

- 研究課題名: 奨励品種決定調査
予算区分: 国庫補助(1/2)
研究期間: 平成6年度(昭和62年~平成6年)
研究担当者: 山川智大、橘 尚明、立松伸夫、森本順一、児玉幸弘